

巻頭言

今抱えている釧路市の教育課題の解決にむけて

釧路市教育委員会 教育指導参事 本川 敬一

釧路市の教育課題を挙げると「不登校対応」「特別支援教育の充実」「いじめの根絶」等々山積している中で、今年度、特に重要と捉えていることは「学力向上とそのための授業改善」「小中連携」「ふるさとキャリア教育」の3つです。

まず、「学力向上と授業改善」については、昨年の12月に実施した釧路市標準学力検査(CRT)の結果においては、課題であった中学校においても改善の兆しが見え始め、学年や教科によっては全国平均を超えるところまで来ました。本当にあと1歩のところまで来たと実感しております。しかし、これはあくまでも「平均点」での話であり、依然としてどの学校・学級にもいわゆる下位層に属している子供たちがいることも事実です。「誰一人置き去りにしない教育」を目指す以上、平均点にのみとらわれず、「個」に視点を当てた指導方法の工夫、学習意欲の喚起も含めた授業改善に取り組む必要があります。

また、今年もゴールデンウィーク明けから毎日のように学校訪問をさせていただき、多くの授業を参観しておりますが、全体的に授業改善が進んでいることを実感しています。どの学校でも「釧路市が目指す授業」に向かって取り組まれている成果だと捉えております。一方で、依然として「教師がしゃべりすぎる」、主役が教師の一斉型授業も少なからず目にします。

「小中連携」についてですが、中学校区ごとに小中ジョイントプロジェクトに取り組んでいただいています。様々な取組の中に、是非とも「教科レベル」「指導方法レベル」「授業レベル」、そして「児童生徒レベル」での小中の連携、そして小小連携にも力を注いでほしいと思います。

さらに今年度は新たに「ふるさとキャリア教育」を重点に掲げました。「ふるさとキャリア教育」は、ふるさと教育とキャリア教育を融合させた教育理念であり、地域への愛着と誇りを育みながら、子供たちが将来地域社会で活躍するための能力を育成することを目的としています。釧路市においても少子高齢化と人口流出が進む中で、地域社会を担う人材の育成が重要な課題となっています。これまでのキャリア教育は、職業観や勤労観を育む一方で、地域社会との関わりが希薄になりがちでした。そこで、両者を融合させることで、子供たちが地域社会への貢献を意識しながら、主体的にキャリアを形成していく力を育むことを目指しています。当研究センターの郷土読本・地域学習研究グループでは、今年度は中学校教員もメンバーに加えて、これまでの郷土読本「くしろ」の部分改訂のほかに、このふるさとキャリア教育のカリキュラム開発にも取り組んでまいりたいと考えております。

最後に、3つの重点に加えて、来年度に向けての動静についてです。釧路市では令和8年度、公立としては道内初となる「学びの多様化学校」いわゆる不登校特例校を中央小学校の3階に北中学校の分校として開校いたします。また、音別義務教育学校と大楽毛学園の2校が義務教育学校として開校します。いずれも教育課題の解決、ひいては子供たちのためです。子供たちの未来のために力を合わせてまいりましょう。

■「釧路教育」第320号 contents■

- | | |
|-----------------|------------------------------|
| 1 巻頭言 | 教育指導参事(釧路教育研究センター所長)の巻頭言です。 |
| 2 研究グループの紹介 | 釧路教育研究センター研究グループ 今年度の活動紹介です。 |
| 3 釧路教育研究センター機構図 | 令和7年度釧路教育研究センターの運営体制の紹介です。 |

釧路教育研究センターでは、北海道及び釧路市における教育目標と教育推進の具現のため、3つの研究グループを設置し、実践的な研究・調査を進めています。今回は、各研究グループの活動について紹介いたします。

学習指導・開発研究グループ



学習指導・開発研究グループは、「釧路市標準学力検査（C R T）の分析結果を基に、小中連携の視点を取り入れた小・中学校の授業公開と研究協議を通して、小中連携における授業の在り方について研究し、その成果を発信すること」を目的に、1か年計画で研究を進めていきます。

今年度は、令和6年度釧路市標準学力検査の結果より課題が見られた国語科と算数・数学科の授業づくりに焦点化し、以下3点の活動を行います。

1点目は、研修講座「9年間の学びの連続性に向けた「釧路市が目指す授業」」の公開です。今年度は国語科と算数・数学科の2教科を公開します。子供たちが主役の「学ぶ意味と楽しさを感じられる授業づくり」はもちろんのこと、小・中学校の円滑な接続に向けた授業づくりのポイントについて研究し、その成果を提案授業という形で先生方に紹介していきます。2点目は、小中連携における授業づくりリーフレットの作成です。国語科、算数・数学科における学習指導に課題が見られる単元について、小中共通の視点や系統性を意識した指導のポイントをまとめて紹介していきます。3点目は、「学習計画表」の作成です。この計画表は、子供たちが家庭学習に取り組む際に、学習内容を明確にし、主体的に学習を進め、生活リズムを見直す一助となることを目的としています。本グループが作成したものをたたき台とし、各校や中学校区の実態に応じて柔軟に改善・ご活用いただける計画表を目指していきます。今年度中には各校へお知らせしたいと考えています。小中ジョイント会議などで、話題にさせていただけると幸いです。

今後も学習指導・研究開発グループでは、先生方の日々の実践にお役立ていただけるよう取り組んで参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

学習指導・開発研究グループ委員 我妻 萌子(中央小学校)

担当講座	期 日	会場
9年間の学びの連続性に向けた国語科教育の充実 助言者：樺山 敏郎（大妻女子大学 家政学部 児童学科 教授） ※元文部科学省国立教育政策研究所学力調査官	10月 6日（月）	美原小・美原中
9年間の学びの連続性に向けた算数・数学科教育の充実 助言者：早勢 裕明（北海道教育大学釧路校 教授）	12月 18日（木）	鳥取西小・鳥取西中

※申込は終了していますが、新たに参加を希望する方は、釧路市教育委員会 学校指導課宛ご連絡ください。

●参考…令和6年度を取組

【算数・数学科授業づくりリーフレット】

本リーフレットは、釧路市標準学力検査（C R T）の分析結果から見えてきた、子供たちがつまづきやすい単元に焦点を当てています。小学校の指導が中学校の学習にどうつながるのか、また、中学校では小学校の学びをどう活かすのか、小・中9年間を見通した指導のポイントや授業づくりのヒントを具体的にまとめました。日々の授業準備はもちろん、校内研修や小中ジョイント会議などで、よりよい授業について協議する際の資料としてご活用ください。



【算数・数学科短編授業づくり動画】

リーフレットの内容と連動し、指導のポイントをより具体的にイメージしていただくための短編動画です。授業における効果的な発問の例や、子供たちの思考を促すための手立てなどを、短い時間で分かりやすく解説しています。リーフレットと併せてご活用いただくことで、先生方の「分かる・できる」授業づくりを力強くサポートできるものと考えております。



子ども支援研究グループ



子ども支援研究グループは、「釧路市内各校における子ども支援に関する課題を踏まえ、教育相談や保護者対応の考え方、カウンセリングの方法などを研究し、実践を蓄積し、その成果を発信すること」を目指します。

今年度は、昨年度からのテーマである「児童生徒が将来において社会的な自己実現ができるような資質・能力・態度を形成するように働きかける教育相談の在り方」をさらに深化、焦点化させ、「発達支持的生徒指導」について1か年計画で研究を進めていきます。

令和4年に改訂された『生徒指導提要』では「発達支持的生徒指導とは特定の課題を意識することなく、全ての児童生徒を対象に、学校の教育目標の実現に向けて、教育課程内外の全ての教育活動において進められる生徒指導の基盤となるもの」(文部科学省.2022)と定義されており、「発達支持的生徒指導では、日々の教職員の児童生徒への挨拶、声かけ、励まし、賞賛、対話、及び、授業や行事等を通じた個と集団への働きかけが大切になります。」と示されております。先生方が日常的に行っている教育活動での発達支持的生徒指導を、さらに体系化、可視化、言語化し、校内のシステムとして活用できるよう事例研究を進め、リーフレットとして情報発信していきます。

1年という短い期間ですが、グループ一同話し合いを重ね、先生方の声に耳を傾けながら活動し、先生方のお役に立てるような研究を進めたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

子ども支援研究グループ委員 齋藤 政人(幣舞中学校)

郷土読本・地域学習研究グループ



郷土読本・地域学習研究グループは、今年度より、小学校から3名・中学校から2名のメンバー構成となりました。特に、以下の2点について、重点的に研究を進めていきます。

1点目は、「ふるさとキャリア教育の推進」です。本市の教育目標の1つ「ふるさと釧路を愛し 活力あるまちに奉仕する人づくり」という理念を受け、これまで「ひと・こと・ものリスト」の作成や、釧路湿原をテーマにした教材開発・授業実践を行ってきました。今後、研修講座で「ふるさとキャリア教育」をテーマとした中学校の総合的な学習の時間の実践を公開し、小中9年間を見通したカリキュラムについて提案をしていく予定です。2点目は、「郷土読本紙面の部分

改訂」です。昨年度は、内容の加筆修正ならびにロイロノートの資料箱のデジタルデータを整理しました。今年度も引き続き、各単元の内容を精査し、内容構成を踏まえた上で、授業で活用しやすい郷土読本を目指して作業にあたります。郷土読本のデジタルデータについても、随時整備を進め、充実を図っていきます。

釧路の子供たちが、ふるさと釧路の魅力に気付き、自分たちの住むまちをよりよくしたり、まちに貢献したりしようとする心情を育てていくために、研究を推進して参ります。グループ委員一同尽力して参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

郷土読本・地域学習研究グループ委員 鵜橋 大志(青葉小学校)

担当講座	期 日	会場
ふるさとキャリアを核とした総合的な学習の時間の充実	11月20日(木)	幣舞中

※申込は終了していますが、新たに参加を希望する方は、釧路市教育委員会 学校指導課宛ご連絡ください。

研究センター 機構図

